

# 平成30年度薬物乱用防止教室推進のための講習会

薬物乱用者の低年齢化が懸念されることや危険ドラッグの乱用者が引き起こす二次的犯罪など薬物乱用問題は、人間の生命はもとより、社会や国の安定を脅かすなど、人類が抱える最も深刻な社会問題の一つとなっています。

本県においては、薬物乱用防止教室を年1回は開催するよう推進していることから、指導者の専門性を高めるための講習会を開催しました。

- 【主催】 三重県教育委員会  
【期 日】 平成30年7月26日(木) 13:40～16:30  
【会 場】 津市芸濃総合文化センター 大研修室  
【対 象】 教職員(小中学校、県立学校)、学校薬剤師等  
【内 容】 (実践発表)「中学校における喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方  
～三つの柱を中心とした取組から～」  
伊勢市立倉田山中学校 教諭 多田 ちか  
(講義1)「非行少年を生まない社会づくり」  
三重県警察本部 生活安全部少年課  
少年サポートセンター少年育成係長 渡邊 義登  
(講義2)「これからの薬物乱用防止教室 ～学校薬剤師の視点から～」  
名古屋市学校薬剤師会 会長 山口 一丸

## 実践発表 「中学校における喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方 ～三つの柱を中心とした取組から～」

伊勢市立倉田山中学校 教諭 多田 ちか

知識・理解、セルフエスティーム、ライフスキルを三つの柱とし、全校で喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育に取り組んでいます。各学年でテーマをしぼったことにより、系統的・計画的に実践を進めることができます。

養護教諭または外部講師による防止教室、職員劇によるケーススタディ、セルフエスティームを高める講演等をはじめ、ロールプレイ、ICTを活用し、あらゆる教科、そして学年の枠を超えて、委員会・部活動でも取組を進めています。



## 「非行少年を生まない社会づくり」

三重県警察本部 生活安全部少年課  
少年サポートセンター少年育成係長

渡邊 義登

少年を取り巻く薬物乱用の現状として、低年齢化に加え、インターネットの普及により、薬物が簡単に手に入り、大人からは見えにくくなっています。また、インターネット上には、間違っただ情報も出回っており、誤って認識されていることもたくさんあります。

薬物乱用は自分だけの問題ではなく、周りの人も巻き込む大きな問題です。薬物には、1回使用するとやめられなくなる恐ろしさがあります。正しい知識を持って自分で判断していくこと、はっきりきっぱりと断る勇気を持つことが大切です。



## これからの薬物乱用防止教室 ～学校薬剤師の視点から～

名古屋市学校薬剤師会

会長 山口 一丸

薬物乱用防止教育とは、「自尊感情（セルフエスティーム）形成・目標設定」「意思決定のための正しい知識」「ストレス対処スキル」「コミュニケーションスキル」を身に付けることによって、よりよい生き方を選ぶ力をつけ、かけがえのない自分を大切にすることを育てることです。

そのために家庭や学校でできることは、「正しい知識を伝えること」「ほめること、信じること、目標・自己尊厳の育成」「居場所を作ること」そして、「子どもの変化に気がいたら、専門家に相談すること」です。



# 参加者からの声

実践発表で各教科での取組などを、三つの柱で統括されて生活に実践しているのが素晴らしいと思いました。

学校全体で、どの教科からも薬物乱用防止を進めることが大切であることがよく分かりました。

実践発表は、学習指導要領に照らし、系統的かつ計画的に取り組んでおり参考になりました。

非行少年を生まない社会づくりのDVDの内容は、どのような流れで薬物に手を出していくか、やめられない怖さが分かりやすかったです。

子どもたちに何を伝えたらいいかが大変分かりやすく、とても勉強にさせていただきました。

児童生徒が自分の身にも起こる可能性があると感じ危機感を持ち、スキルが身につくよう取り組んでいきたいです。

大麻などの薬物の使用が低年齢化していることもあり、小学校での指導について、資料等教えていただくことが多かったです。

2学期から学習に取り入れたいと思います。分かりやすく参考になりました。

1回でも絶対ダメの意識を持たせる、その大切さを再認識しました。

薬剤師さんの観点から話が聞けてよかったです。